TOBA
鳥羽少年探偵団

興味津々、鳥羽の色。

第 3期鳥羽少年探偵団報告書

平成１5年度

第3期鳥羽少年探偵団調査報告書

指令 小説 潮騒」の足跡を追え

はじめに

鳥羽少年探偵団は、地球塾の特別講座として鳥羽市ゆかりの偉人について、調査や体験学習を通して鳥羽の文化や歴史を学ぶため、平成１３年度よりスタートしました。第３期目となる平成１５年度は市内６中学校１２人の団員と明智小五郎役教諭を迎え７月に結成しました。今期は、神島を舞台にした小説「潮騒」の作者・三島由紀夫をテーマに、神島など３回に渡って調査し、１１月には山梨県山中湖村にある三島由紀夫文学館を探索しました。三島由紀夫文学館では、「潮騒」の創作メモなど三島文学の様々な魅力に触れることができました。

◇結団式

日時	平成 15 年 7 月 6 日（日）
場所	神島

午前９時５０分佐田浜発神島行市営定期船に乗船した第３期鳥羽少年探偵団一行は、船の揺れを体感し１０時３８分潮騒の島・神島に着きました。

結団式は桟橋近くにある神島離島開発センターで行われ、明智先生こと神島中学校の池田先生より任命書とバッチが渡され１２人の第３期鳥羽少年探偵団が誕生しました。

〔明智小五郎より任命書授与〕

◇第1回学習会　初江のモデルを捜せ

日時	平成 15 年 7 月 6 日（日）
場所	神島

小説「潮騒」の取材で、神島を訪れた三島由紀夫の世話をした寺田こまつさん宅を訪ね、三島由紀夫の神島での生活の様子について聴き取り調査を行いました。寺田さんからうかがった話の中から興味深かったものをいくつか紹介します。

〔寺田こまつさん〕

◇新婚１ヶ月の私が２１歳の時、主人は当時２６歳の船長でした。主人の父宗一は当時、漁協組合長で「宿は旅館より民家がいい」という三島先生の希望で「それならうちに」と１ヶ月滞在されました。

三島先生は気さくな人で、「皆さんと一緒に食事がしたい」と言われ、家族同然の暮らしをしていました。蛸壺漁から帰ったときは、私たち家族に楽しそうに漁の話をしてくれました。

◇三島先生が神島を発つ時、「小説ができあがったら、この島は全国津々浦々まで知れ渡ることになる」と、自信たっぷりに話され、どういう人やろな、ただの人やないと思いました。

〔潮騒初版本を見る〕

寺田さんには、当時の話の他にも三島由紀夫の写真や小説「潮騒」の関係資料を見せていただきました。

寺田さん宅を後に、「歌島に眺めのもっとも美しい場所が二つある。一つは島の頂近く、北西にむかって建てられた八代神社である」など、小説の中に度々登場する八代神社に向かい、二百十四段の階段を登ると、新治がお参りし「いつかわたくしのような者にも、気立ての良い、美しい花嫁が授かりますように・・・」と祈るシーンが蘇ってきます。

〔文化財収蔵庫〕

古代から海上交通の要衝の地であり、伊勢湾文化の中心地であったと考えられる神島。八代神社の鳥居横にある収蔵庫には、国の重要文化財・考古資料に指定されている宝物の銅鏡など伊勢神島祭祀遺物が収蔵されていました。

〔映画潮騒関係資料を調査〕

映画「潮騒」の蛸壺漁の指導をした小久保梅三郎さん宅では、映画の台本や俳優さんが島民と一緒に撮影した写真など貴重な資料を調査することができました。

小久保さんは、「映画ロケの度に島は沸き返った」「映画監督とも交流が続いた」と話してくれました。

指令第１号
・小説「潮騒」を読んでおけ

◇第2回学習会（公開）
映画「潮騒」鑑賞会とゆかりの地めぐり

日時	平成15年10月5日（日）
場所	神島

純愛小説「潮騒」は１９５４年から１９８５年にかけて５回映画化されました。神島には映画に登場する「監的哨」や「神島灯台」「八代神社」などが今も残っています。

この日は、公開学習会として一般参加者約７０人、地元島民約７０人の参加もあり映画鑑賞会会場の神島離島総合センターは満員となりました。映画鑑賞に先立ち城山団員が小説「潮騒」の感想文を発表しました。

映画は、浜田光夫（新治役）吉永小百合（初江役）両俳優が演じた潮騒第２作（１９６４年の日活作品）を鑑賞しました。約４０年前の神島の様子が印象深く映画鑑賞の後、伊勢市在住の元映画助監督、郡長昭さんの案内で周囲約４㎞の島内を歩き、新治と初江の足跡をたどりました。

この日は天気も良く「眺めのもっとも美しい場所が二つある」と小説で紹介された神島灯台や八代神社などでは、団員達は日頃見られない景色に感動している様子でした。

〔神島灯台前の郡さん〕

指令第３号
・１０月２５日浜田光夫さん、吉永小百合さんに手紙を出す。
その下書きを準備せよ。

◇

第3回学習会　小説の舞台裏を調べよ

日時	平成15年10月25日（土）
場所	鳥羽２丁目、樋の山周辺

午前１０時、鳥羽みなとまち文学館に、小説「潮騒」の秘密を解く鍵を握る人物、小久保佚生（いつお）さんを迎えました。

実は、「潮騒」のラストに書かれた新治の沖縄行きのくだりは、三島由紀夫が神島滞在中に下宿した、寺田家の長男、和弥さん（寺田こまつさんの夫）の実体験がモデルなのではないか、と言われています。小久保さんはその和弥さんとともに、昭和２７年の秋、１８５ｔの貨物運搬船「第八通一丸」で、沖縄の運天港に航海した経験を持つ人物です。

小説中で新治が海に飛び込み繋船したシーンは、実際に起こった出来事で、和弥さんが嵐の中で海に飛び込み繋船を行ったことであると小久保さんは話してくれました。

この話を聞いた団員の一人は、「三島由紀夫が寺田家で聞いた実話を小説に登場させた。その生き証人から貴重な話を聞けた。」と目を丸めました。

〔第八通一丸の写真を手に話す小久保さん〕

この日二つ目の取り組みで、第２回学習会で見た映画「潮騒」の主人公の二人に手紙を書きました。
日頃手紙を出すことが少ない？団員達は、明智先生にアドバイスをもらいながら一生懸命書きました。

〔うまく書けたね！〕

三つ目の取り組みは、鳥羽市在住の女流作家の岩田準子さんをゲストに、鳥羽の文学について話しを伺いました。岩田さんは江戸川乱歩と親交があった岩田準一の孫で、小説「二青年図」の作者です。小説を書くきっかけや、祖父のこと、みなとまち文学館などについて親切に話してくれました。
団員達は「今、鳥羽に作家がいることが分かった。」「鳥羽で小説が誕生したことがスゴイ」と話していました。

〔貴重な資料を説明する岩田準子さん〕

四つ目の取り組みは、鳥羽少年探偵団のルーツを探るとして、坂手島の村万商店を訪問し、江戸川乱歩関係の写真や色紙について調査しました。

◇県外調査　潮騒メモを追え

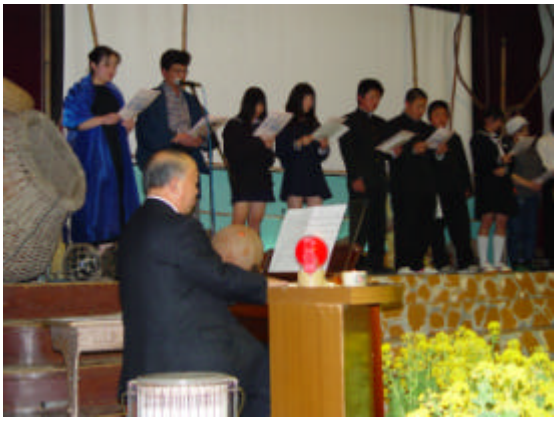
日時　平成 15 年 11 月 15,16 日(土 ,日)
場所　山梨県　三島由紀夫文学館

＊三島由紀夫文学館調査報告書にて紹介しています。

◇潮騒朗読会に挑戦

日時　平成 16 年 3 月 14 日（日）
場所　鳥羽小学校講堂

「小説潮騒の足跡を追え」という任務に就き、伊勢湾の入り口に浮かぶ神島へ調査に出かけ、三島由紀夫ゆかりの人や映画「潮騒」の関係者などと出会い、見たり聞いたりして調べた彼らは、三島由紀夫の小説「潮騒」の足跡の大きさに驚きました。そして、山梨県山中湖村にある三島由紀夫文学館へ出かけ、学芸員から話を聞いた団員達は、三島由紀夫についていろんなことを知ることができました。
団員達の活躍のまとめの場ともなった、伊勢志摩フィルムコミッション主催の潮騒誕生５０周年記念事業「小説潮騒朗読会」は、多くの協力者と団員達の努力で大成功を納め、５０周年に花を添えることができました。
会場に詰めかけた約２００人から大きな拍手をいただき、舞台に立つ団員を見たある中学校の校長先生は、「探偵団活動に参加し、大きく成長し驚いた」と話してくれました。



〔長尾オルガンを演奏する佐藤先生と出演者〕